

2,011年2月23日 党首討論

谷垣 まず冒頭に、昨日ニュージーランドのクライストチャーチで直下型の大きな地震が起きました。被害も甚大であり、心からお見舞いを申し上げますと同時に、邦人も安否が確認されていない方がまだ、たくさんいらっしゃるわけですね。ですから政府にはまず邦人の保護と被災地の支援に全力をあげていただきたい。このことをまずお願いしておきます。

実は今日、昼前に現地クライストチャーチに住んでおられる日本人の方から悲痛な電話をいただきました。わが自民党本部にお電話があったんですが、富山の方々が通っておられる学校、二次災害等々も心配されるので救援活動が止まっていると。で、非常に不安に思っておられるわけですね。そうすると日本から来た救援隊が命綱だと。一日も早く政府専用機と救援隊を送ってもらいたいと。台湾とオーストラリアはもう来て活動をしているけれども、日の丸を見たい。こういうご主旨でございました。もうすでに2時過ぎに日本から発たれたようですから、この方々たちにはご苦勞ですが頑張ってくださいと思います。

ただ私はですね、昨日民主党はいろいろ党内のもめ事を、いろいろ解決しておられたと思いますが、私は、昨日から取り組まれたら、昨日の夜には発てたのではないかと、そうすると今朝には着いて、もう行動開始できていたんじゃないかと、こういうふうに思います。今、ごたごたと失礼なことを申しましたが、もうひとつここで念を押しておきたいことがございます。今、衆議院の予算審議はまさにたけなわでございますけれども、この予算の裁決までにきちっと小沢さんの問題について責任を果たす。これが民主党から来た答えでございます。私どもの求めているものは証人喚問でございます。これをきちっとやっていただく。このことを念を押しておきたいと思います。

そして、(菅総理の挙手を制して)ちょっと待ってください、本題に入りますが、今回はですね外交安全保障をやりたかったんですが、この間民主党比例代表の方16人、会派を離脱すると、こういう届けを出されましたね。そうするとどうしても確かめておきたいことがあるんです。この16人の方々はなんとおっしゃったか。「菅政権は国民との約束、マニフェストを捨てたのである。そういうことでは自分たちの存在価値もない」。こういうことから会派を離脱するとおっしゃったわけですね。これに対して岡田幹事長はですよ、「マニフェストをこの期に及んで全部やらなければいけない。これは国民の意思からだいぶ離れている」。あるいは「できないことをいつまでもできると言い張るのは有権者に正直ではない」。こういうことをおっしゃっているんですね。菅総理自身はですよ、政権をとられるまではガソリン値下げ隊であるとか、自公年金改革案の批判である

とか、徹底的に闘われるという方向をとっておられた。いま、菅さんはマニフェストをきちっと踏まえて政権運営をしておられるのか、あるいは、岡田さんのように、今更マニフェストを進めることは国民の期待に背くことだとお考えなのか、その点をまず伺いたいと思います。

菅総理 まず、昨日、日本時間の午前8時51分にニュージーランド南部で地震が発生をいたしました。そして、昨日の段階で第一回目の関係閣僚会議を開き、今日の予算委員会の前に第二回目の関係閣僚会議を開きました。ニュージーランドから正式な国際緊急援助隊の派遣の要請がありました。それまでにすでに昨日の段階で三人の先遣隊を民間機で出して、今日、朝には現地に入っております。その情報も併せて、成田にあるいろいろな資材を千歳にありました政府専用機を成田に運び、そして約70名の消防庁、あるいは警察庁あるいは海上保安庁等の中から選抜したメンバーをその政府専用機で今日の午後2時過ぎに成田から出発をいたしました。明日午前の1時には現地に着することになっております。まずは被災に遭われた方にお見舞いを申し上げますとともに、日本の留学生なども災害に遭われてますので、そういう人たちの救出はもとより、この被災に遭われた皆さんにたいする救出活動に全力をあげていきたいと。私は、この、まだ支援の要請が正式にある前に3人の先遣隊を出したということは、その後の作業に大変迅速な対応ができた。私はそのように思っているところであります。

次に、谷垣さん一遍に三つも四つも言われるものですから、どうしてもお答えせざるを得ません。

小沢元代表の件についてもお話がありました。昨日、わが党として、小沢元代表については、議員権を裁判が決着するまで停止するという、そういう正式な決定をいたしました。これで党としてのけじめはできたと、このように考えております。

次にもう一点、わが党の会派離脱を希望した16名の方の問題をお触れになりました。私はですね、これ谷垣総裁にぜひ逆にお聞きをしたいんですけども、いま、もっとも重要な問題は国民にとって何なのか。ここまで景気が回復しつつある中で、予算をちゃんと成立をさせて、予算を執行することが私は今の国民の生活にとって最も重要なことだと思います。これは是非あとでお答えください。つまりですね、いまここでもし予算が成立をしないとか、あるいはその執行ができなくなったときには、せつかく回復の路線に乗りつつあるこの景気に水を差すことになるわけでありまして、そういった意味では経済界の中からも、「国会議員はまず予算の成立に向けての議論をしっかりとやってほしい」、こういう声も出ているところであります。そういった意味で私は谷垣総裁に何を

優先していまこの国会でやるべきなのか、そのことを、そのご意見をお伺いしたいと思います。

谷垣 菅さんねえ、反論されるのはいいですけど、私の伺ったことに答えてくださいよ。マニフェストをきちっと踏まえてやるのか、それともマニフェストは御用済みなのかということ伺ったわけです。まあ、いままでの菅さんのご答弁を聞いていると、都合の悪いところは逃げるというところがありますから、まあ、ここで押し問答してもしかたがない。

私は今回この予算委員会を通じて、そしてこの 16 人の方々の問題が起こって、この審議の過程で何が明らかになってきたか。私は三つのことが明らかになったと思っているのです。

まず第一に、あ、その前に申し上げたいことがある。菅さん、そこに座っておられる根拠はなんですか。それは選挙でお勝ちになったから。政権選択の機会は衆議院選挙なんですよ。2 年前の衆議院選挙の時にマニフェストを掲げられた。そのマニフェストを踏まえておられるのかどうか。あなたの正当性の根拠を踏まえておられるのかどうかということ伺ったんです。で、今までの国会の議論。3 つの問題を提起していると思いますよ。第 1 は菅さんたちのこのマニフェストが実行不能なものであって、そうしてもう閣内からもあるいは党内からもそれを撤回したらどうかというような、これはやめるんだ、あれをやめるんだというような議論が出ている。これはまさに、絵に描いた餅、砂上の楼閣であったということが明らかになった。これが第 1 点。

第 2 点はそれを踏まえていたはずの菅さんたちの政権の正当性がまったく崩壊した。こういうことです。

それから 3 番目。3 番目は 16 人の方の造反に示されているように、党内すら掌握できなくなっているんですよ。これはやはりガバナビリティ、あるいは菅さんのリーダーシップ。日本を率いていけるかどうか。このことも明らかにペケがついている。これが今の状況です。

で、この 3 つの問題が現状であるとする、これをどう克服していくかということですよ。

まず第 1 に実行可能な政策体系、これをつくらなければいけない。これが第 1 でしょう。

そして 2 番目。そういう政策体系にどうやって正当性を与えていくかということですよ。

それから第 3 番目。きちっと政策を運営して国内を掌握していけるような統治体制をどうつくるか。これが 3 番目の問題ですよ。

これをやっていこうとすると、結局もう一回国民の声を聞いてしっかりと体制

を整えなおしていくしかない。これは前回私が菅さんに申しあげたことであります。ここが一番大事なポイントで、まず党内も掌握できなくてですよ、責任はどうなるんだ、何が優先だ。筋違いですね。私は責任の押し付けであるとはっきりと申し上げたいとこのように思っております。

そこで、先ほど早くやらなきゃだめじゃないか、いま大事な時期じゃないかとおっしゃった。ならね、玄葉大臣、この間特例公債法、6月まではいいんだみたいなことをおっしゃった。さすがに金融財政委員会で謝罪はされましたよ。だけど今まであれほどね、年度内成立を訴えてこられたのはなんだったのですか。社民党の協力を得られなかったこと、あるいは民主党の会派離脱騒動、こういうことで態度を変えて、この国民の生活にかかわる法案、これを党利党略で弄んでいるのではないですか。

私ね、ひとつ確認したいことがあるんですよ。予算、それからその歳入を確保する特例公債法案もそうですね。税制もそうですね。これは一体で議論して、一体で参議院に送っていくというのが憲政の常道です。ところが今民主党のほうから見ますとね、それを先送りするような議論が聞こえてくる。これはね、おかしいですよ。まさか、まさかですよ、まさか統一地方選挙までは現行路線のままでいって先延ばしをして、統一地方選挙が終わったらなんか妥協しようと考えている。こういうことじゃないんでしょうね。まずはっきり菅さんたちがおつくりになった予算。それから歳入を確保する法案、こういうものを年度内にきちっと通していくという覚悟がお有りなのかどうか。これを伺いたいと思います。

菅総理 谷垣総裁にですね、是非、この私が答えた後には私のした質問にも答えてくださいね。つまり、(やじに対して)今から答えますから。つまり、私が質問をしたのは、今の国民の生活にとって最も重要なのは予算の成立と執行だと思うけれども、どうですかと見解をおききしたのです。前回もお聞きしたけれど、結局のところ答えていただけませんでした。まさに予算審議の真っ最中だからこそ、予算が最も重要ではないですかという質問になぜ答えられないのですか。そのことをこの後必ず答えていただくことをまず要求して、私に対する質問にも答えます。

マニフェストについては、すでに予算の審議の中で何度も申しあげておりますように、一昨年の総選挙の国民の皆さんとのお約束ですから、何としてもこれを実現するために全力を挙げて今日までやってまいりました。いくつかのことは実現しました。いくつかのことは着手しました。しかしまだできていないものもあります。そして任期の半ばをこの9月に迎えますので、そうしたことを検証をして、どうしてもできないものについては改めて国民の皆さまに説明を

すると、そのことは予算委員会でも明確に申し上げているところであります。そこで、今本当にですね、谷垣さん、なにか解散解散という趣旨のことを言われますけれども、じゃあ予算も通さない、何もしないでこのまま解散することが本当に国民の皆さんにとってプラスになると思って主張されているんですか。また予算関連法案の扱いについていろいろ言われました。もちろん私たちは予算関連法案をこの年度内に何としても実現したいと、こう考えて一生懸命予算委員会でこの必要性を皆さんに説明をしているじゃないですか。それに対してしっかりした議論をしているのが現在の衆議院の予算委員会で、衆議院を通過さしていただければ、参議院でもそうした皆さんにきっちりとですねお願いをいたしていきます。つまりは予算と予算関連法案を成立をさせるというのが私たちの目標でありまして、それが年度内であることが望ましいことは言うまでもありません。

一つだけ敢て谷垣さんだから申しあげます。谷垣さんはかつて金融国会の時に宮沢大蔵大臣のもとで、政務次官を、もう大物であったにもかかわらず、やられましたよね。そしてその時も逆のねじれでした。自由民主党は「ブリッジバンク法案」というものを出しましたけれども、自ら出した法案を採決しないでずうっと延ばしたのはなぜですか。つまりは成立をさせる見通しがいいから与野党協議をやったんじゃないですか。そうした過去の例も見て、国民の皆さんに対して責任を持った行動をとってもらいたい。歴史に対して責任がもてる行動をとってもらいたい。このことを申しあげ先ほど申し上げたことについての質問に必ずこたえていただくようお願いいたします。

谷垣 だいぶ菅さん頭に血が上っておられるようですね。まあ、いくつかお問いかけになりましたからね、たしかに金融国会の時に菅さんたちがご提案になった法案を、当時丸のみと言われましたけれども、当時、長銀や日債銀といった大きな金融機関がまさに倒産しようとしているときだった。それに対して、きちっとした対応の法案がありませんでした。そこで、いい案を出していただいたから、われわれは飲んだんです。そのことは良かったと今も思っておりますよ。それはそれに対するお答え。

そして今何が大事だ、何をするのかということをお問いかけになったのです。で、じゃあ菅さんにお尋ねします。われわれですね、(やじに対して) いやいやいや、われわれはですよ、すでに案をきちっと出して、皆さんが予算をつくられた、税制をつくられたという時もわれわれの予算の大綱、税制の大綱、これをつくりまして、当時は確か財務大臣のところにお届けしたんだと思います。去年の12月。菅さん、これを、ここにあるんですがね、菅さんこれをお読みになっているんだろうか。私どもはこれを基にしてきちっと予算の組み替え案を

お出ししたいと思います。これをやはりきちっと検討していただきたい。このように思っております。18' 18"

そして、そしてさらに菅さんたちがおつくりになった予算についてどう考えているのか申しますと、これはもう端的に言いますとね、菅さんたち民主党が政権をとられてから、2年連続、税収よりも国債発行額が多いんですね。これはやっぱりいろんなバラマキもあり、財政規律に対する考え方が弱いんですよ。私はこのままこういう体質の予算を通していくのは益にならないと思っております。そしてもうひとつ申し上げますと、昨年この、菅さんたちがですね、平成23年度予算案をおつくりになりました時にいろんな評価がありました。あれは何日でしたかね、12月のいつでしたか、12月26日ですが、日経新聞に確か10人ほどのエコノミストの方のこの予算に対する評価がございました。押し並べてこれは成長に寄与しない、あるいはマイナスである。こういう評価でありました。こういう予算に対する評価というのは、今まで私見たことがありません。やはり基本的な理念、基本的な財政に対する考え方、経済に対する考え方。私たちはこれは違っているというふうに思っておりますですね、われわれの理念と相いれない予算、あるいは関連法案。これを小手先の修正や国会戦術で通すのは、私は百害あって一利なし。このように考えております。

ですから、何度も申しあげているように、お互いにもっと堂々と自分たちの信じていることを国民に問うて、そしてリセットしていくことが早道である。このように申しあげているわけでございます。そして、もう一つ私の言ったことをご注意ください。選挙が終わったら与野党を越えて衆知を集める。これ、できるんですよ。

菅総理 まず、組み替え動議を出されるということ、今谷垣総裁約束されました。是非、いい立派な組み替え動議を出していただきたいと思っております。先ほど、金融国会の時のことを谷垣さんもお認めになりました。当時、政府からも法案が出てました。「ブリッジバンク法案」と言う。しかしそれよりもわが党が出した「一時国有化法案」が、今その方がいいと思ったから丸のみしたと言われました。是非私たちが、自民党が出した予算の組み替えの方が、私たちにすばらしいと言って丸のみできるような案をですね、是非出していただきたい。期待をして待っております。

そしてその上で申しあげます。その上で申しあげます。先ほど財政規律についてのお話がありました。私もこの直前まで財務大臣をやっておりましたので日本の財政がどのような状態にあるかということは、いやと言うほどわたくしなりに感じております。だからこそ、その問題も含めて社会保障と税の一体改革という、これは避けて通れない課題であることは谷垣総裁もよくよくご承知の

はずであります。しかし残念ながらこれはですね、単年度だけの議論ではできません。かつてリーマンショックの後に、9兆円の歳入欠陥が出たのは、麻生内閣がつくった予算だったんですからね。そういうことを考えますと、必ず何年間かけてやらなければならない、中長期の課題になるわけですから、是非とも社会保障と税の一体改革について、4月には社会保障の姿をお示しします。6月には税との一体改革の内容を提示をいたしますから、ちゃんと与野党の協議に、今のっていただければいいじゃないですか。なにか政策よりも、あるいは国民の生活よりも、政局ばかりを言われているように私には聞こえてなりません。

谷垣　まあ、菅さんね、少しわれわれの言っていることを政局とおとりになるのは、菅さん政局になると急にイキイキなさる。そういう菅さんのご性格があるのではないかと私は思っております。

それで、それで、いまの点で申しあげますとね、菅さんが財政を何とかしなければいかんと思っておられるのはわかります。それから社会保障も何とかしなければならぬと思っておられるのもわかります。で、いま菅さんたちがやっておられるのはね、大体われわれの時やっていたのと同じようなメンバーでやっているので、大体、案もある程度は透けては見えるわけですよ。だからはやくね、われわれのやっていたところに追いついてください。ということをお願いしたい。

そして菅さんもですよ、消費税を含む財政再建が、自分の言ってみれば天命である、使命であるとお思いになるのなら、やっぱり国民の声をしっかり背に受けておやりにならなければいけない。だから私は、先ほど申し上げているようなことを、繰り返し繰り返し申しあげているんです。それで私が申しあげていること、菅さん、なかなかああだこうだとおっしゃって耳を傾けていただけない。

実は今日もうあと12分になっちゃったんで、外交安全保障のことをやりたかったんで、そっちの方に移りたいと思います。

それで今ですね、やっぱり菅さんが党を掌握されているだろうかとか、ガバナビリティがあるかというようなことを申しあげました。一番国民が心配に思っているのは、内政もそうですけれども、外交についてそう思っているんですね。非常に不安に思っていますよ。だから、このまま菅さんたちがおられたら国益にならないと多くの国民が思い始めている。

で、まず私はロシア問題について伺いたいと思います。11月にメドベージェフ大統領、北方領土に行かれた。でそのあと、メドベージェフさんだけでなく、あそこの要人が次々に行って実効支配を誇示するということをしてます

ね。それで、この北方領土、いまさら言うまでもありませんが、幕末に日口通行条約を結んでから、条約上だって一度たりとも日本領でなかったことはない。そういう固有の領土であるということは、これは菅さんと私の共通の理解だ。そうですよね。それで、けども、そういった、この前の戦争の、要するに実益というか成果を、そのまま、そのまま居座るんだということを、ロシアは言っているわけですね。で、それをアメリカにまで通告したという報道がこのあいだございました。

そこでロシア、どうしていくかということですが、まず、菅さんに伺いたいのは、ロシア大使はどなたですか。ロシアにいらっしゃる日本の大使はどなたですか。

菅総理 まず、ロシアの問題についてお話がありました。実は先日もロシアの専門家の皆さんに何人かお集まりをいただきまして、これからのロシア問題を考える上で、私なりにいろいろ話を聞きました。谷垣さんもお承知のとおりでありますけれども、この65年間の日口、あるいは日ソの歴史というものはですね、いろいろな時期がありました。最初のいわゆるブレジネフの時代はですね、なかなか話が進みませんでした。そしてその中で、たとえばエリツィン大統領と橋本総理との間ではですね、かなり話が進んだ時期もあったと、私承知をいたしております。つまりは日口の65年のこの領土問題、わが国固有の領土を如何にして4島返還をするかということ、粘り強くやらなければいけないと同時に、あわててやってはならない課題だと、私はこのように考えております。11月のAPECの時、その前にですね、確か11月の1日だと思いますが、メドベージェフ大統領が国後に上陸をされた後、河野駐露大使を日本に帰ってくるように私が指示をいたしました。そしてAPECの折にはメドベージェフ大統領とのバイの会談において国後に上陸されたことについて、私から強く抗議をいたしました。このように日口関係あるいは日ソ関係というのは長い、ある意味での苦難の歴史がありますから、私は粘り強く、しかしあわてないでこの交渉に当たっていきたい。これが私のロシアに対する姿勢であります。

谷垣 65年の間に、日露の間にいろいろなやり取りがあり、その時その時の状況、可能性もいろいろだったと、それはその通りだと私も思います。そこで私がなぜ、ロシア、モスクワにおられる大使はだれかと伺ったのは、今お名前も出ましたね。河野さんなんですよ。で、河野さん、去年の11月に一度戻して、菅さんの政権は更迭をすると決められたはずですよ。あの時新聞紙上に後任者の名前も出ました。それでどうなったんですか。いまだに河野さん

がやっておられるわけでしょ。私はね、総理大臣が更迭を決断した大使がそのあと何カ月もおられる。ねっ。こういうことで今ロシアにいる大使館、きちっと行動できるんですか。ここにね、私は外交に関してきちっとガバナビリティを行使しておられない端的な例があると思うんですよ。ですからいま確かにですよ、いま確かにロシアがああいう強硬な態度に出てきているのは理由があると思います。特に来年はあそこで選挙がありますから。選挙があるときは少し外に対して強く出なければいかんということもあるでしょう。それから、あその国はある意味では外交の、どこの国でもやることかも知れませんが、弱みがあると思ったらパッと衝いてくるという外交体質があることもこれは事実です。じゃあ、どこの弱みを突いてきたかという、結局日本のロシア外交の根本が、大使をどうするかにも表れているように、しっかりしていないところがある。それから、もうひとつは日米安保体制が揺らいでいることなんですよ。私はここに原因があると思いますよ。いかがでしょうか。

菅総理 この日口の領土問題については、いまあるところまで谷垣さんと私の認識、一致をいたしております。つまりは65年間の中でいろんな時期があったわけです。で、残念ながら橋本総理の後、エリツィン大統領も体調を壊された後ですね、残念ながらそれからの進展は長くありませんでした。この政権交代前までの間もですね、それほどはかばかしい進展があったとは私は聞いておりません。

そういう中で、これはこういう場でどこまで申しあげて良いか、多少控えなければなりません。やはり、中露との関係とかですね、いろいろな考え方がそれぞれの国にあります。私はロシアが今太平洋の方にある程度、このいろいろな投資などしている一つの背景には、人口が東の方、非常に少ないんですね。ですから、何とか人口を増やすためにも東の方で経済的な開発等をしていきたいという、こういう色々な思惑というか、そういうものもあるというふうに考えております。

それから日米関係についていろいろとおっしゃいました。確かにある時期、普天間の問題で日米関係がややぎくしゃくしたような場面もありました。しかし、私は今年の6月に政権を引き継いだ時に、5月28日の日米合意を踏まえてですね、日米の関係を進めていくということを申しあげまして、その後、三度にわたるオバマ大統領との首脳会談を含めて、現在の日米関係は極めて安定した状況にあると、このように理解をいたしております。

ですから、たとえば尖閣の折にも前原外務大臣とクリントン国務長官との間ですね、日米安保条約の、その範疇に尖閣が入るということもきちんと表明を米側もされましたし、そういった意味で日米関係が安定状況にあるということ

は客観的にも、私は国際的にもそういう了解をいただいているものと、私はそう認識しております。

谷垣 ロシアの問題も、またこれからこの場で議論していきたいと思いますが、まず日本のロシアに対する外交体制、人事をどうするのか。これ、きちっとしてくださいね。

それから、日米関係は非常に安定した状況にある。この認識が私は違います。昨年、日米安保 50 周年だったのですけれども、この 50 周年を記念する式典すら開けていないというのが現状ですよ。それはやっぱりコアにある沖縄の問題がつかえちゃっているからだと、私は思います。それでここも、いま良い状況だとおっしゃるけれども、民主党の外交がこの問題に対してガバナビリティはない。なぜか。知事選でも参議院選挙でも皆さんの考えを支える候補者いなかったじゃないですか。それで、しかもですよ、民主党の沖縄の皆さんは、のっけから国外だ国外だとずうっと言ってきた方を応援していたんですよ。一体どのようにしてなさるのか。

もう時間がありませんから、もう一回ここでお聞きします。菅さんね、いままで日本とアメリカは辺野古沖だということで二回約束しているわけですね。それで二回目は菅内閣で、菅さんの内閣のもとでアメリカと約束をした。(指摘があり) あっ鳩山内閣で。現在でも辺野古沖、こういうふうに考えていることでもいいのか、それから今度の予算案の中にこの関係予算が入っておりますが、これは、きちっと成立させて実行していくのかどうか。このご返答をいただきたいと思います。

菅総理 5月の28日、鳩山内閣のもとで改めて日米合意が行われたことは、もう皆さん良くご承知のとおりであります。それを踏まえて、私がこの普天間についてもですね対応していくということを申しあげました。その意味で、この日米合意に沿った形で私たちの予算も提案をさせていただいております。提案はベストなものとは私たちは思って提案しておりますので、それを成立させていただいて関連法案もちょうと成立をさせていただければ、きちんと執行してまいります。

谷垣 菅政権の外交に対するガバナビリティのなさ。もう一刻もね、長いこととどまるのはね、国益に反しますよ。そのことを申しあげて、終わります。

党首討論後の会見の様様

Q：党首討論を終えた感想をお聞かせください。

A：前は、マニフェストの正統性の喪失、マニフェストが非常に崩壊したということに焦点をあてましたが、今回は民主党の16人が会派離脱をおっしゃって、完全にガバナビリティーの喪失がはっきりした。そういうことが今回のテーマで、事実、その点ははっきり表れていると思います。

外交については、ロシア外交だって河野大使のことを挙げましたが、一度罷免すると言っておいて、その後、何カ月も後任も決まらない。こういう状況で本当に求心力のある外交ができるのか。こういう人事を放置していること自体信じられません。

その他も用意しましたが、時間の都合で全部言えませんでした。菅政権のグリップの衰えはある程度浮かび上がらせることができたと思っています。

Q：ガバナビリティーのなさの部分では、特にどのような点で浮かび上がらせることができたとお考えですか。

A：私は驚いたのですが、菅さんは自分のときの金融国会の例を挙げて、丸飲みできるくらいの良い予算をやってくれと。予算の組み替え動議を出してくれと。これはちょっと、開いた口がふさがらない発言です。法律というのは、我々は立法府にいますから、与党であろうと野党であろうと出しますが、予算の提出権は内閣にしかありません。彼らが完全に飲む組み替え動議というのは、そんなことがあったら野党の組み替え動議を飲むようなことがあったら、不信任案に限りなく近いと我々は理解してきましたが、そんなことをポロっと発言するあたりに、議会制民主主義に対する根本的な、何か感覚の、なんというか、エイリアンと言ったらいいのか、そういう感じを受けました。

Q：逆に追い込めきれなかった部分がありますか。

A：例えば、もう少し用意したのは、中東でいろいろなことが起こっています。このことは原油価格の高騰、エネルギーが確保できるかなど、我々の生活に直結する問題です。そういう意味で中東には日本人がたくさん活動していますが、果たしてこの問題が起こった時に、では中東問題に対してどういう対応をしたのか。例えば、担当大臣をすぐに派遣するとか、そういうこともない。

なぜこういうことを申し上げるのかというと、我々は野党になってから、何人かの中東関係者から民主党政権になって中東への関心がものすごく落ちていくと聞いていたので、そのときは、いまのような動乱があちこちで起こっている状況ではありませんでしたが、その対応を見ていると基本的に関心がないではないか。この政権には。

そういう感じが、そういう問題はいくつか用意していましたが、ロシアみたいな大国で、確か本当に河野さんがそうおっしゃったのかはわかりませんが、「ロシアの事情に疎いからと」、そういうことをあとで誰かおっしゃったわけですが、それで罷免したはずで、全然補充人事をしないということはちょっと信じられない、言ってみれば無責任というか、関心のなさというか、もう少しロシアをどうしていくのかという関心を持っていれば、おのずから対応は違ってくると思います。

Q：菅総理は、自民党が予算と関連法案を通さないのは政局だと言いつつ放っていましたか。

A：予算を野党が賛成するようになれば、議会制民主主義、野党がみんな予算を賛成する、そんな議会が今まであったのでしょうか。それは基本的な問題です。初めから予算に賛成するくらいなら連立政権でしょう、と思います。

Q：仮に政府が予算と関連法案を分離して、衆院に関連法案を残した場合、どのように対応しますか。

A：採決しないで握りつぶすというか、いろいろやっていくというのに、野党としては衆院で多数を持っていないので、なかなか対応は簡単ではないことは事実です。

ただ予算というのは歳出権限です。特例公債法であれ、税法というのは歳入です。歳出と歳入が無関係に議論することは、そもそもおかしいと思います。法形式は、予算と法は違いますが、基本的に一体なものなので、それを党利党略で握っている。これは、我々は今、衆院にいますから参院のことを云々する場合ではありませんが、参院側はそういう扱いで、税法がいつまでも来ない状況の下で、予算をどう扱うのかというのは、随分と変な話だと思います。

Q：つまり与党側が予算を衆院通過させた時点で、野党との協議の意思はないと理解するということですか。

A：それは、いろいろ考えているとは思いますが。邪なことなのか、“縦じま”なことかはわかりませんが、あまり憲政の常道から外れた手練手管で行くと、かえってうまくいかないと思います。

Q：公明党とは打ち合わせをされたのですか。

A：今までは内政のことだから、今度は外交を触れなければという程度の話はしました。

Q：菅総理に対して、「頭に血が上っている」「政局が好き」など挑発的な発言があったと思いますが、これは戦略だったのでしょうか。

A：戦略というほど、私は悪人ではないので、おのずからなる反応ということだと思います。言ってみれば、菅さんは、前回に比べるとだいぶハイテンションだったと思います。何か、こうそういう感じでハイテンションだったらうまくいくという意味ではありませんが、だから山口代表から「北風ピューピュー吹かしても」と言われてしまったのではないのでしょうか。